

六条公民館新聞

番外 発行所 六条公民館 編集 広報部 発行 不定期 適時無料配布

山本五十六の言葉

続きがあるのを知っていますか？

改めて考えさせられる格言です。

この格言からは、いかに人を動かすということが難しいか、徹底的に人に向き合うことが必要かということがわかります。

また、人を見る目は失敗することでも身につくといわれます。「うせねぼくせず」という山本五十六の言葉はかくも重く、現代の人事にも普遍的に通じるものがあります。しかしその裏には、すでに採用した人材のみならず、時代の流れを読もうとする食欲があったことも無視できません。

「やってみせ言って聞かせてさせてみてほめてやらねば人は動かじ」
「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」
「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」

1つ目はよく語られ知られていますが、後の2つはあまり知られていません。これからの時代、働き方改革、リモートワークなどの外部環境が大きく激変する中で、今後の組織の人材育成においては、特に後の2つは、

このことから学べることは、人材採用の際には徹底的に寄り添い育てるという面だけではなく、その人材が入ることで組織がどう変化し、時代背景をどのように鑑みることができるのか。客観的な判断のできる人材かどうかを見極める必要があるということです。



つまり、昔ながらの田植えを覚える時などの不慣れな様子。児童に責任を持って田植えをやり遂げてもらうためには、田植えの意義や重要性を伝えることが大切です。これが「言って聞かせて」です。

「なぜその田植えが重要なのか」、「自分の植えた苗がその後どのように育っていくのか」、「意識して田植えをしないと尻餅や足が抜けないなどの事故や災害が待っているのか」など具体的に伝えることが大切です。杵板然りです。

児童が取った望ましい行動に対しては、ポジティブなフィードバックとしてほめることをします。ポジティブなフィードバックを受けることで、児童は次に向けてますます頑張ろうと行動喚起へとつながるからです。

注目すべきは、五十六はほめることだけでなく、承認をすることの重要性も続きの名言で説明しています。五十六のメッセージを解説すると、相手を認める大切さを伝えることをしなければ長期的にひとは育たないということです。



これを六条つ子田事業に置き換えて、もう少し深掘りしてみると、児童に行動を起こさせるには、まずは自分が手本となつて良いモデルになり「やってみせること」です。リーダーの良いモデルを見せることで児童は安心してどんな行動を起こせばよいか」という見通しがつきます。

児童に責任を持って田植えをやり遂げてもらうためには、田植えの意義や重要性を伝えることが大切です。これが「言って聞かせて」です。

児童に成功体験を積み重ねるためにやらせてみます。これが「させてみせ」です。成功体験を積み重ねるやり方にも工夫が必要です。児童が持っているスキルよりも少し上のレベルのもの、つまり挑戦できるレベルのものを任掛けとして設定することも大事です。

なぜなら、あまりにもレベルが高すぎると自身喪失につながりますし、レベルが低すぎると退屈さやマンネリ化が起きてしまうからです。

また、ほめることは難しくを伴います。なぜならお互いに信頼関係が構築されていないと効果が発揮されず、逆効果にもなりかねないからです。・・・お疲れ様でした。

差を知り、「誰よりも戦争に反対した男」山本五十六の人材に対する姿勢は、戦時中ではない現代においても、深い教訓を与えてくれます。



例えば、児童に成長日誌を頼んだ場合を想定してみます。「ちゃんと記録しておいてね!」と頼むのと「いつも細かく観察していて生育記録として残してくれるから先生達にも見やすいと好評だよ。今回もお願いしたいからよろしくね!」と伝えることで児童の記録に対する姿勢や重要性も変わってくると思います。



児童が取った望ましい行動に対しては、ポジティブなフィードバックとしてほめることをします。ポジティブなフィードバックを受けることで、児童は次に向けてますます頑張ろうと行動喚起へとつながるからです。